



発行所
全国曹洞宗青年会
〒105 東京都港区芝
2-5-2 曹洞宗宗務庁内
発行責任者 伊藤道宣
TEL03-454-5411P9

三微肇序萬字四春



伊藤道宣 会長

爽やかな新春を迎え、会員各位には、「大衆教化の接点を求めて」新たな決意を、宗祖に御誓いの事と拝察、大慶至極に存じます。

早いもので、私がこの紙面に於て、年頭の御挨拶を申し上げるのも、これが最後と成りました。「発つ鳥後を濁さず」と申しますが、第八期に限り、一案を呈し、会員各位に御考察戴き、熱き討論の末、任期を満了致したいと存じます。

そのテーマは「明日の青年会について」

衆知の如く全曹青は、昭和五十年当時、全国で開催された「禪の集い運動」に集う、曹洞宗教化連合会の、心ある青年宗侶を中心に、結成された団体であります。発足当時、個人加盟で有りました全曹青は、只範囲を全国とし、宗務庁に事務所をおくというだけで、地方曹青と

立場を同じくした、一曹青と考えられていました。しかし、活発な活動展開に伴い、地方曹青との連絡協力は不可欠な問題となり、又全曹青会員と、地方曹青会員との色分けがなされ始めた事により、それまでの個人加盟から、地方曹青を全曹青の加盟団体とする、所謂「団体加盟方式」が導入されたので有ります。爾来全曹青は「連絡協議会の連絡協議会」という立場を堅持して参りました。

しかし本当にそれではいいのでしょうか。管区理事を立て、加盟団体毎に評議員を出し、議会議決により、全国的活動を展開している全曹青は、組織的には、すでに立派な包括団体としての機能を果たしているとは云えないでしょうか。

私が「曹青の単一化」を提案する理由は幾つか有ります。

その一つには、宗門外から見た全曹青と云う組織で有ります。

神野前会長は、全日仏青の理事長を兼任され、それまでの地域仏青中心の考え方から、宗派仏青を大きく登用した、組織改正を断行されました。以来、その質、量共に、最高最大の全曹青に対する全日仏青の依存度は、計り知れないものがあります。今や全曹青は、名実共に、日本の仏教青年会を代表する存在で有ると共に、世界最大の、有僧籍者集団で有る事を自負すべきなのです。

二つ目は、加盟団体の利益不平等のは正で有ります。

現在全曹青の管区大会助成金は、参加費もとらず、一千万円を超える予算のもので有つても、会員が、自費を投じてやうと二百万円程度の予算のもので有つても、すべて十五万円です。

予算にあわせて助成するのですか。それでは実績の有る所に厚く、これからの所に薄く成りませんか。助成金で有る以上、活動費獲得に苦勞している所にこそ、厚くすべきではありませんか。更に管区によっては、全曹青未加盟団体が、管区大会担当曹青と云う場合があります。全曹青は、この加盟費も払っていない団体にも、助成金を出さざるを得ない場合も出てしまいます。逆に、全曹青には加入しているが、管区曹青には未加盟と云う団体も有ります。この団体は、全曹青に加盟費を払いながら、管区大会に於ける全曹青の助成を受けていない事に成ります。これが「平等」と云えますか。

又、全曹青の団体加盟費は、会員二百名を超える団体も、会員二十名の団体も一律二万円です。曹青通信の配付だけを見ても、これが「平等」と云えますか。

ならば、会員一人当たりの会費を決めて徴収すれば、平等に成りますか。地域格差をどうしますか。時間を割いて、一生懸命に活動してくれている会員も、減額も見えない会員も、同じ負担額ですか。やはり平等とは云えないように思います。

ならばどうすればいいのですか。能力や時間の負担は別として、私の考える最も「平等」に近い方法は、まず金銭的負担の撤廃、つまり会費の撤廃です。しかし会費を撤廃すれば、当然本庁予算に頼らざるを得ません。会運営のすべてを本庁予算に於て賄うと云う事は、本庁直属の公的機関で有ると云う事で有り、「青年会は一つ、そしてそれは、九つの活動管区、六十六の支部を持つ」と云う考え方をせざるを得なく成ります。しかしそれが、どれ程影響するのでしょうか。現在

各地で行なわれている「禪を聞く会」を始め、近くは昨年行なわれた「修証義公布百周年記念法要」にしても、行政で決定された行事を、結局根底で支えているのは、何時も我青年会員なので有ります。どうせそうであるならば、行政の外ではなく、内に有つて「青年会」としては、どう云う、意見発表の場を持つべきではないでしょうか。「四十迄の鼻たれ小僧の意見が、行政に反映される訳がない」との御意見も有ります。しかし考えてみて下さい。全国という地域に、行動力は有れど、派閥のない、四千と云う宗侶から成る集団が、他に存在しますか。我々はもつと自分達の存在と実力を、認識すべきで有ります。行政が、我々青年僧の意見に、耳を傾けない事は、教化集団として莫大な損失で有り、宗門に明日はないと言つても過言ではないので有ります。

第三には、全曹青と単位曹青、更には宗門の相互利益で有ります。

青年会が宗門の公的機関と成れば、最低各宗務所毎に、曹青は有つて当然で有り、未結成地区は、僧籍簿により該当者を探し、全曹青が直接育成する事が出来ます。全国すべての地域に支部が存在すれば、青年会は堂々と本庁と予算折衝をし、全国的視野から、これからと云う地域に厚い助成をし、青年会活動に於ける地域格差を、少しでも少なくする事が可能と成ります。更に、助成を受ける為には、活動をしなければならぬという発想にも繋がりはいませんか。しかし、現況の単位曹青が「全曹青の支部を兼ねる」という考え方に立脚すれば、その使い分けによる、単位曹青の利益増大は確実で有ります。

又、我々は「曹洞宗青年会」で有ります。曹洞宗の青年会である以上、我々の活動のすべては、宗門の教学布教の一環で有るはずで、そして我々には、若く柔軟な頭脳と、情熱と行動力が有ります。

「我々の企画は宗門の試案で有り、我々の活動は宗門の実験で有る」という観点に立ち、我々の活動の中の、成果のあったものを宗門が伝導教化して行くという方式はとれないのでしょうか。そしてその為、宗門はほとんど青年会に活動費を出し、青年宗侶の新しい発想の下に、自由な活動をさせるべきではないでしょうか。

もしこの組織作りによって宗門が、護持会教団から教化集団に脱却する近道と成れば、宗門の受ける利益も、絶大なものが有ると信じます。

宗門はよく「両大本山をもてども、行政は一つ。一万五千ヶ寺の大和合衆」と豪語します。ならば何故「曹青は一つ」と云わないのですか。

二年にわたり、各管区曹青の大会に御招き戴き、拝聴した挨拶の中で、何時も言われる言葉は「東北は一つ・・・」「九州は一つ・・・」「中国は一つ・・・」ならば何故「曹青は一つ」と云わないのですか。

何時までも「後発の全曹青ごときが」等と内輪事を言っている時ではないので有ります。

この趣の論議は、何時も「時期尚早」の一言で終わってしまします。しかし今が「時期尚早」で有るならば「時期到来」とは何時の事なのでしょう。ここに書き綴りましたものは、あくまで私の私案で有ります。これをもとに、四千の英知を以て、我々の青年会の将来を、そして宗門の未来を、熱く論じて戴きたいと存じます。そしてその結果を、私なり、事務局なりに御送付下さい。あと僅かで、全曹青は二十周年を迎えます。九期に、あのいは十期に、いやもっと先になるかも知れませんが、全曹青は、その立場を明確にしなければ成らない時が、必ず来ます。その時の貴重な資料に成ると存じます。

合掌

青年僧侶のエネルギーを結集しよう
社会的価値ある活動をしよう
青年僧侶の自覚を促そう
地域における活動の連携を深めよう

目次

年頭挨拶.....	1-2
禪文化学林.....	3
東海大会・中国大会.....	4-5
我が曹青を語る(福島)・尼僧団便り.....	6-7
研修・意識調査報告.....	8

破草鞋

今年もたくさんの年賀状が全国で配達された。考えてみれば年賀状というものは、本来は出掛けて年始の挨拶をするところを略して葉書きにてというものであろう。年に一度遠方の友に、日頃御無沙汰し、お世話になって居る人々に対し、挨拶に行くかわりに一年間の御礼を述べると共に、本年も宜しくお願ひしますと書くことが普通であらう。最近の年賀状は書く枚数が増えるばかりである。全国の年賀状の総数も増加の一途である。それもそのはず、出掛けて年始の挨拶をする人へも年賀状を出すのが当たり前になっている。それどころか、元日に顔を合わせる事になつて居る友人、知人、親戚にも出すという人が多し。日本人特有の「より丁寧」ということであらう。

遠方の友や、なつかしい人達からの年賀状はうれしものである。ましてや、一言、二言、自筆で書いてあると真心が伝わって来るように思う。しかし年賀状のほとんどは印刷である。年末の忙しい時に書かなければならないので印刷ですまし、住所だけは仕方なしにというのが現状であらう。そして昨今増えてきたのは写真の年賀状である。家族全員の写真をはじめとして、圧倒的に多いのが子供の写真である。印刷よりは見た目がいいし暖か味がある。少々経費はかかるが住所書くだけでよい。だが、子供の写真年賀状は相手を考えて出して欲しい。孫の顔を見て喜ぶ祖母や親戚ならば、まだわかるが、それ以外の所では印刷年賀状と同じだろう。

いずれにしても、めんどうだといふのが本音の年賀状、「より丁寧」とは矛盾する。虚礼廃止と言われて久しい。曹青同志、虚礼でないつきあいをしたい。

謹 賀 新 年

本年も宜しくお願い申し上げます

第八期全国曹洞宗青年会

本部役員

会 長 伊 藤 道 宣 (愛知三)
 副 会 長 伊 東 充 伸 (島根二)
 長 井 俊 英 (佐賀)
 谷 本 俊 昭 (岩手)
 事 務 局 長 渡 津 法 晃 (愛知二)
 事 務 局 次 長 田 中 良 宗 (北海道二)
 庶 務 名 村 直 高 (愛知三)
 会 計 中 山 義 紹 (熊本)
 監 査 鎌 原 泰 彦 (大阪)
 清 水 昭 信 (四国)
 神 野 哲 州 (愛知一)
 顧 問 野 哲 州 (愛知一)

理 事

関 東 小 原 宣 弘 (茨城)
 東 海 小 島 泰 道 (岐阜)
 近 畿 桂 川 道 雄 (滋賀)
 中 国 岩 田 泰 成 (島根二)
 四 国 福 村 俊 弘 (四国)
 九 州 村 上 和 光 (熊本)
 北 九 州 西 村 秀 道 (新潟)
 東 北 三 国 典 照 (青森)
 尼 僧 団 井 川 悦 導 (尼僧団)

委 員 会

総 合 企 画 委 員 会
 委 員 長 村 松 延 行 (静岡三)
 副 委 員 長 稲 垣 智 正 (福島)
 委 員 長 谷 川 寛 孝 (静岡三)
 委 員 長 鈴 木 芳 巳 (愛知三)
 岡 野 聖 弘 (京都)
 中 村 哲 元 (長崎)

事 業 研 修 委 員 会

委 員 長 村 田 和 彦 (京都)
 副 委 員 長 宮 崎 良 章 (京都)
 笠 神 雅 彦 (宮城)
 鯨 岡 宏 智 (茨城)
 時 田 泰 俊 (岐阜)
 吉 津 弘 道 (広島)
 矢 野 通 元 (四国)
 文 殊 靖 彦 (佐賀)
 遠 藤 和 光 (尼僧団)

組 織 委 員 会

委 員 長 平 清 水 公 宣 (山形一)
 副 委 員 長 山 田 邦 博 (愛知三)
 委 員 長 栗 林 文 英 (新潟)
 委 員 長 福 田 康 夫 (千葉)
 酒 井 秀 瑞 (和歌山)
 原 田 秀 道 (山口)
 栗 田 光 潤 (四国)
 白 土 晃 道 (福岡)
 無 着 至 純 (山形一)

広 報 委 員 会

前 田 弘 道 (尼僧団)
 委 員 長 木 南 広 峰 (静岡志太)
 副 委 員 長 押 見 正 宏 (北海道二)
 竹 俣 昭 孝 (尼僧団)
 目 黒 修 道 (埼玉)
 村 山 雅 雄 (大阪)
 木 村 芳 典 (島根一)
 仙 井 恵 久 (四国)
 寺 田 冬 道 (長崎)
 中 野 睦 宗 (新潟)

特 別 委 員 会

全 日 仏 青 係
 吉 村 明 仁 (千葉)
 矢 光 雪 巖 (埼玉)
 松 本 俊 幸 (千葉)
 堀 部 明 宏 (愛知一)
 島 田 岱 禅 (愛知一)
 桂 川 道 雄 (滋賀)
 出 版 係
 佐 藤 悦 成 (愛知三)

平 成 三 年 元 旦



ヴァチカン研修にむけて

第三回

日欧の壁を越える

群馬県長楽寺住職

峯岸 正典

日本の地理的特殊性

日本が島国であるという第一の特徴は「外敵から守られている」というところにある。海に囲まれ、日本は攻めにくい。歴史上、先方から先駆けて日本国土が攻められて来たのは、一二七四年、一二八一年の元寇ぐらいしかない。

第二回目の元寇では、元・高麗連合軍十四万余と四千四百の船舶に襲われたが台風と脆弱な船の造り方に救われて、国家存亡の危機を免れた。

反対に、国外に攻めて出て行ったことの方が多し。豊臣秀吉の朝鮮出兵。ざつと四百年ぐらゐ前のことである。しかし、今でも朝鮮半島の南部へ行くと、名所旧跡の仏像等が破損しているものは、すべて加藤清正がやったこととして語り伝えられている。日本には民族としてのそういう経験がない。

日清、日露の戦争は、すべて外地での戦いであり、しかも勝利に終わっている。第二次世界大戦ではじめて、敗戦、引き続き占領という経験を持ったが、空襲を除き、本土が戦場となったことはない。世界史上まれに見る安穏な国なのである。つまり他民族によって直接、虐げられた経験のない民族ということ。

島国の第二の特徴は、陸地の上に「国境がない」というところにある。イラクのクウェート侵攻を思い起こすまでもなく、中近東やヨーロッパでは、地理的に無防備。いつ、どこからでも侵入され得る。そして、誰が侵入して来るかといえは隣国人なのである。だから、たえず周囲を警戒してはなくてはならない。それに反して、日本人は、自分たちとは異なつた人たちが隣り合わせにいるということとを、日常の中では意識していない。

特異な敗戦体験

確かに、日本は二千年の歴史の中で、占領されたことが一回ある。しかし、これがまたきわめて特殊な体験であった。その当時、世界でもっとも民主的な国であったアメリカ合衆国によって占領されたのである。

第一次世界大戦後、ドイツにあまりにもきつい条件を押し付けたがために、第二次世界大戦に進んだというにがい経験を待つ戦勝国側は、占領国にあまい形で逆に復興を促す形での政策を推し進めた。日本の場合、敗戦によって、農地解放や婦人参政権が確立するといったように、政治の民主化、経済の発展、安定化がより拡大して行く中で占領国であった。だから、巨視的に見たとき、それは痛めつけられた経験ではない。

日本は回りを海で囲まれているので、攻めづらい。したがって、攻められた歴史が数少なく、しかも、異民族に圧政という形で、統治管理された側の痛みが基本的にはわかってない。一般に外国人との付き合い方が上手ではない。

日本の歴史的特殊性

最近の諸研究によると、今の日本人の原形が整つたのが江戸時代であるといわれる。いわゆる日本的と思われているものいくつかを、辻達也博士の著述からいっしょに考えてみたい。

衣食住という観点から、代表例を挙げると、着るものでいえば和服。安土桃山時代の風俗画で見られる和装と現代の和装では姿が異なる。袖の長さをはじめ、帯の幅にしても今日見られる姿形になったのは元禄期からと云われている。和食の代表といえは会席料理。一般化したのは、天保年間からという。寿司に

しても、起源はたいへん古いというが、寿司と聞いてすぐ連想する握り寿司は「江戸前」という言葉もあるように江戸後期の出現。一日二度の食事が三度に定着したのも元禄前後。

住で云えば、書院造りが民家に取り入れられていったのがこの時代。玄関が造られ、権勢の象徴であった床の間、縁側、明かり障子、欄間付き等の座敷が、禁止されたほど広まっていたのが江戸時代である。

今日、日本の特質を現しているといわれているものの多くが、一、近世の所産

二、以前から存在したもので、その形態、性格が江戸期に入って変様もしくは完成。民衆の中に定着したものという。(中公新書、江戸時代を考ふる)

こうして、日本を代表するものが整つて行った時代、現代日本人の行動様式および美意識が形成されて行った時代が徳川江戸期であり、それはまた鎖国の時代であった。

つまり、日本人の日本人らしさが形成される時代に、外国との交流がなく、外国人と付き合う機会に恵まれず、「閉ざされた島国が全世界であり、日本人以外の人間と生活を共にしたことはない、同時に外人は夷狄とか、紅毛、毛唐であつて「ふつうの」人間ではなく、そんな者の住む海外へ出かけようなどと考えるだけでも祖國を裏切る事になって死刑に処せられた。」(松原久子「日本の知恵ヨーロッパの知恵」三笠書房。以下の引用はすべて本書による。)

そんな時代が今の私たち日本人を形作った「母」なのである。よく云われているように、私たちは外人に対して、いたく高圧的になるか、へり下るかの極端な態度しか取れないことが多い。それは大げさな言い方をすれば、歴史の中で形成された民族的弱点なのである。

日本人一家の災難

日系大商社、ヨーロッパ現地法人の社長一家のお話である。「彼等は町の一等住宅地に邸宅を借り、その家主一族とはベートーベンの交響楽

を通して急速に親交を深め、娘のピアノ演奏会、家族の誰彼の誕生祝い、クリスマス休暇などには家族ぐるみで招待し合うほどの仲となった。ところが社長の一番下の息子がローリースケートで邸宅一階のサロンの床板をメチャメチャに傷つけてしまった。それは木材を小さな三角形に切つて合わせた模様の高価な床であった。それを発見した家主は、その日のうちに社長を裁判所に訴え、もちろん弁護士を通して床板破損弁償金の請求、契約違反による即時立ち退き等々、音楽を通しての国際理解も友好関係も床板のためにあつたという間に粉砕されてしまった。

「契約を楯にとり、たかが子供のしたごとくぐらゐで大袈裟に裁判に訴え、本社に知れたらどうなるか考えてもくれない。床板はきちんと新しく直すと言つても信用しない」というのが社長の言い分であつた。あれほど親しくしていたのに掌をかえたやり方で恥ずかしくないのか、もう少し相手を信用してまかしてもよきそんなものだ日本人なら当然感じることであろう。

所有物に対する考え方の違い

ところが家主の言い分は、「あれほど親しくして信用していたのに邸宅の賃借契約を破り、床板を破損するような不法行為を平気で子供にやらせる人物は、それをきちんと元通りに直すと言つても信用できない。だから即刻、法的手段に訴えて確実に弁償金を取らねば不安である」と言うのである。

これは契約に対する日欧の感覚の違いに因ることは明らかだが、もう一つ、所有物に対する日欧の感じ方の相違が大きな原因なのである。所有物と訳されているドイツ語は「Besitz」つまり自分の全身を賭けて占拠すべきあるいは守るべき物なので、とするとその上に座り込んで執拗に確保する権利と義務があるわけである。その際の真剣さ、一指も譲らぬ厳しさは日本人には異様に見える。

宗教は、ヨーロッパの人々にとって、魂の救いという、所有物以上の懸案事であるからして、宗教戦争まで起こるのである。



▲ヴァチカン市国全景

日本人の無常感の通じない世界

ところが、日本人は所有物をそうやって断固として握り続けても、「地震や台風で一物残らず消え去る」という体験をしてきて、また、「そういつた体験の記憶を伝えてきて」いて、所有物に対し非常にあきらめが早い。全身を賭けて守り、傷つけば断然元通りになるまでがむしやりに闘うという精神は養われるはずがなかった。それに比べヨーロッパでは「所有物は台風とか地震とかいった自然の猛威にさらされることは少なく、戦争や強盗の他人為によって失われる以外、守ろうと必死になれば確保できた。また(気候がたいへん寒く、瘦せかけた大地という)貧弱な自然と、無防備の地形にあって所有物のみが生命をつないでくれた。それを守ろうとするのは当然で、『恥も外聞もない』はしたない行為だとは誰も思わない。せつかくの親しい間柄をこわしたくないけれども、自分の所有物を台なしにしてしまった人間とはもう親しい間柄ではなくなつたわけ、それでもなお、交際を続ける必要があるかどうかは、場合により異なる。」と考へた。

今日、日本人は世界中どこへでも気軽に出かけ、また各都市に滞在し、仕事をし、他国人にも慣れ、終戦までの世界観は笑話話になった。しかし、白人を善悪両面もつた、一人一人教養程度も能力も異なる当たり前の人間として扱っていない。

外国に住む駐在員たちが、日本人同士で固まり、現地の社会に融け込まないこととはつとに知られている。言葉が堪能でビジネスにたけていても、外人と、日常つき合うのは気骨が折れるから馴れ合つた日本人同士になつてしまふ。さかんな海外旅行にしても、主体とな

っているバックツアーは、日本人同士の日本語が通じる旅行であつて、外国の中に飛び込む旅行ではない。

禅文化学林の意義

禅文化学林は、単なる海外旅行ではない。今回は特に、異質な宗教との交流、相互研修が課題である。三十年前だったら不可能な交流であつたらう。長い間の地道な努力を重ねて、はじめて可能となつたものである。だからこそ、一つ一つの研修を丁寧に誠心誠意受けとめて行かなくてはならないと思う。

日本とヨーロッパの間にある歴史的断層は一時にして、取り返しつかない溝を作り得る。けれども、この溝を越えて行く力はそれぞれの宗教にしかないはずである。結論を急げば、個々の宗教の交流は個々の人間の交流を可能にする。日欧の溝がどんなに大きく深くても、宗教者同士の交流をもとに諸宗教の相互理解が深まって行く中で、必ずやお互いに共通に立ち得る地盤が見つかるとは必ずである。なぜなら、人間の根底的な物の見方、考へ方を構成しているのが宗教だからである。

そういう意味で今回の禅文化学林は時代の要請にこたへたものであろう。しかし、企画された時点で掲げられた理念が成就するか否かは、参加する者の心がけによる。だから同時に、歴史的制約を越えて羽ばたこうとする私たち一人一人の人間としての奥行の深さが、禅文化学林において試されることにもなり得る。

お互いに必要とされることは、相手の立場を尊重するという基本的態度。そして、自分自身を白紙にして、相手に融け込んで行くことという勇気がなければ、実は結ばない。自らを鍛える場としての禅文化学林。出発の日が待ち遠しい。



▲修道士とのシンポジウム

東海曹洞宗青年会 浜松大会

静岡第4曹青 (照自会) 会長 杉山 晴 康

東海曹洞宗青年会浜松大会が、地元静岡第4曹青(照自会)の会員諸兄を委員長として、去る平成二年十月二十三・二十四日の両日風光明媚な浜名湖畔で開催されました。

当日は全曹青会長伊藤道宣君・地元曹青所長老師を来賓に迎え、百数十名の曹青会員の参加により、和やかな中にも意義ある大会であった事をご報告させていただきます。

第一日は浜松の奥座敷、館山寺温泉(館山寺ロイヤルホテル)にて講演会が開催され、講師には静岡県西部浜松医療センター副院長・脳神経外科部長の金子満雄先生をお招きし、「老人性痴呆性(ぼけ)」について講演を戴きました。



▲講演される金子満雄先生

長寿・高齢化時代といわれる現代、老人性痴呆性が社会問題としてクローズアップされています。我々もお檀家さんと接する中、此の問題で苦しんでいる方が多数有ることは承知をしているもの、どのようにアドバイスしてあげられるか手をこまねいて居るのが現状だと思わされます。

このような時、金子先生に講演を戴いた事は得たものと実行委員一同、自画自賛すると同時に、先生との打ち合わせの時「ぼけ予防の根本はそのひとの生き方に起因するので、あなた方宗教者の普段の働きかけが大事」とのお言葉にはいたく責任を感じた次第であります。以下、金子先生の講演の要旨を記して皆様

の参考にしてほしいと思います。講演の多くは診療ケースを基にスライドを使ってほけない秘訣をわかりやすく紹介されました。先ずは脳の仕組みとして、「右脳が感

性を、左脳が理論、記憶などをつかさどり、それぞれの機能を活用しないままでおくと脳は萎縮する。痴呆の患者の多くは、右脳が小さくかすかすで、これは感性を育ててこなかったから」と示されました。

又、「ぼけの予防の基本は若いうちから、右脳を刺激する趣味や勉強をすること。とにかく若い時から開放的に和を保ちながら、ゆとりある暮らしを心掛け、生きがいを持つことが先決」とアドバイスいただきました。

さらに、ぼけ発見の手掛かりとして、①意欲の減退②無表情になる③最新の出来事を忘れる④話がぐどくなる⑤異性に無関心⑥だらしなくなる⑦旅行(外出)に行かなくなる⑧趣味を突然やめる⑨同時行動ができなくなる⑩自発的でなくなる。の上項目を紹介されました。

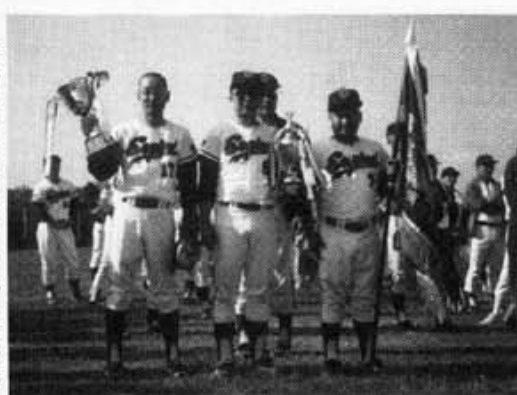
そして「ぼけると、これまでの生き方そのものが出てしまいます。予防と同時に、良いぼけさんになり、いい介護を受けられるよう、いい人間関係を今から築くことも忘れないで」と強調されました。

さらに、欧米と日本の痴呆には大きな違いがあると指摘されました。欧米の対象者はほとんどが八十歳以上で、そろそろ足腰が弱くなり、それにつれて頭脳も衰え始めた人々をどう面倒見るかが主問題であるが、日本の患者さんは六十一七十歳の人が過半数を占めると。ことに公務員の場合、定年後二三年で起こったという人が少なくないと。先生の統計的分析でも「趣味の無い人」「交友の無い人」などに多いことがはっきりしているが、その本体は何だろうか。

欧米人は若い頃から「個人として、どう生きるか」をテーマとして生きているようである。毎年、一ヶ月ないし一ヶ月半の有給休暇があつて、それを中心に、「今年はこのように人生をエンジョイして生きるか」を模索して暮らしている。仕事は生きる糧を稼ぐ手段として必要であるが、其の他に各自の生き甲斐、人生を持つている。そして定年になればいいよ自分の人生のみに没頭できると張り切るのだと。それに比べて日本人のどれほど多くが、ただ働くことが人生と勘違いしていることだろうか。そして、いったん

仕事をとり上げられると、何もやるものが無くなるのだ。人間は働きバチとは違うのである。心貧しき人生の末路こそが痴呆なのだ。と先生は指摘されたのであります。

全国の曹青会員諸兄、如何がお考え戴きましたでしょうか。我々はこの十年、いや二十年位以前より物質文化の豊かさに比べ、精神文化の貧しさを指摘し、各種行事(禪の集い等)を企画実行してきたことは事実でありましたが、全く力不足であったことを痛感せざるを得ません。と同時に現代社会がそれほどすごい勢いで人の心をむしばんできた事を認識しなければなりません。そしてそれは、我々宗教者の責務、存在の重さを認識する事にも通じるのではないのでしょうか。



▲ソフトボール優勝の岐阜曹青

第二日は浜名湖の入口、舞阪町清園運動場にてソフトボール大会が実施されました。東京ドームでの全国大会に向けて各曹青とも力を入った試合を展開し、好プレー珍プレーの出るなか、岐阜曹青が優勝、第二位に静岡第三、第三位に静岡第四となりました。年々各曹青ともユニホームを揃えての参加がふえてきて、各々の連帯意識の強さが表れた大会となりました。試合はトーナメント方式で行われましたが敗者も二試合・三試合と親睦交流試合に参加でき、閉会まで秋空のもと、浜名湖畔に歓声が響いて清々しい一日でありました。

以上のごとく東海曹青浜松大会は意義ある大会として閉幕致しました。後日談ではあります。金子先生の講演・著書の問い合わせ等は静岡第四曹青事務局までどうぞ。

静岡第四曹青 オペラに出演

浜松市が音楽の街づくりの一環として、日本オペラ振興会と共催したオペラ「あだ」の公演が去る平成二年十一月十七日夜、浜松市民会館ホールで行われ、詰めかけた市民約千三百人が、和洋融合の舞台を堪能した。

浜松市は一昨年から日本オペラの公演事業に取り組み、音楽の総合芸術といわれるオペラの魅力を市民に紹介している。今回取り上げられた「あだ」は、三上於菟吉原作の「雪之丞変化」をもとに作曲家三木稔氏が作曲、京都在住のジェームズ・カーカップ氏が台本を書いたもので、日本の伝統芸能とオペラの、自然な融合を図った異色の話題作。あだうちを題材に優れた心理劇に演出され、海外でも高い評価を得ている。

午後六時三十分、静岡第四曹青のメンバー二十人が客席最上段より、般若心経の読経とともに登場し、オペラの開幕。序幕・終幕等で主人公雪之丞が殺された面影のことを回想するシーン等に雲水の正装姿で登場。おおいに舞台を盛りあげた。開演前メンバー各位は緊張をほぐす為、各々発声練習をしたりで、大変だったが終了後は熱烈な拍手に送られ、「くせになりそう」とのこと。

杉山会長は「今度のステージは仏教をアピールする絶好の機会。こういう活動も布教の一つだと考えている」と話している。

法要の際にご本堂などで

妙法蓮華経
●安楽品 ●序品
●持明品 ●持明品

曹洞宗日課経大全

修證義ミニ本

100冊未満・1冊につき ¥500

100冊以上の場合 ¥480

100冊以上・1冊につき ¥80

●500冊以上、裏表紙に寺名を刷込が出来ます。

別紙金襴仕上げ表紙(3冊セット) ¥7,000

洋紙(きぬもみ)仕上げ表紙(3冊セット) ¥6,000

●お申し込みは (株)タイキ 平538 大阪市鶴見区今津中3丁目9番6号 TEL(06)969-7191 FAX(06)969-7194

(※各甲品も有ります。修證義との組合せも出来ます。)

修證義



5冊組入 ¥6,000



10冊組入 ¥11,000

第13回中国曹洞宗青年会広島大会

広報委員 木村芳典

去る十一月二十七・二十八日の両日、広島県三次市に於いて第十三回中国曹洞宗青年会が開催された。

開会式上、まず大会長で中国曹洞宗連絡協議会会長岩田泰成君より、今回岡山曹青年会が正式団体加入によって参加があったことの朗報につき、「我々青年僧侶は宗門の伝統ある行持作法を引き継ぎ、伝えて行く重大な役割を担っている。昨今大事な行持作法が忘れられ疎かにされつつある傾向にあるが、今回の研修はその我々の足許を見つめ直す格好の場であると云えるのでぜひ有意義なものにしてほしい」との挨拶に続き、来賓諸老師、全曹青年会長伊藤道宣君の挨拶があった。



▲開会式

今大会は「行持と意義」をテーマに第一日目は「伝法を観る」と題して、講師に鳥取県森福寺住職で宗議会議員でもある佐藤正道老師を拝請して講演が行われた。老師は曹青年会発足当時、教化部長として内局へ入れられ、曹青年会の組織作りに関わって来られ、又長く橋本恵光老師に随身しておられた。老師は「観る」とは、皆々の心の眼を開いて、伝法とは何ぞやをよくよく観察して頂きたいとの願いからである。とされ、「血脈・嗣書・大事の三物は、その根本となるものは血脈であり、嗣書であり、さらに外部に向って活発なる教化をするためには大事というものがその根底になければならない。三物は一つのものだけれども、特に外部に向っては大事が中心に働くという考えである」と前置きをされて講演に入られた。テキストには万何道坦和尚の「室内三物秘弁」の岸沢惟安老師による三訂版が用いられ、その内の特に大事を中心に話が進められた。

まず洒水、豎懸横懸、嬰兒行等の口訣を一通り解説されたが、その中で特に横懸の拝のところで、「この拝が意味している謂る不階級辺の事はまさに嗣書の円相との関りを表わしているのではないかと考えている」という老師の自論の一端を述べられた。



▲佐藤正道老師

次いで大事の総説に移り、更に五位のそれぞれの図についてかなり詳しい解説を頂き、約三時間の講演を終了した。確かに「伝法」の内容全体を理解するには三時間の講演ではとても足りないと思われるが、私も含め普段中々この様に詳しく正しく教えて頂ける機会がほとんどないという現状にいる者にとって、たとえ短時間でも大変意義深い講演であったことは言うまでもなく、それは恐らく他の多くの諸師兄も同様ではなからうかと推察した。

大会二日目は「行持を聴く」と題して、曹洞宗教化研修所主事駒沢大学講師でもある中野東禪老師を講師にお迎えして講演が行われた。



▲中野東禪老師

老師はまず宗門の伝統的儀礼の種類を対自的なものと対他的なものに分けられた後、宗門儀礼の意義を述べられ、次いで中世仏教儀礼の特徴を時代を追って挙げながら、儀礼を歴史的に考える上での様々な問題が中世にあることを指摘された。

そして次には、現代における僧侶への意識調査結果から、自分が置かれている立場や環境によって僧侶自身が持つ中心価値に大きな違いがあるのがわかったこと、更には靈観念の問題、或いは仏教における惑・業(因果)・苦・解脱の構造、祈りの種類、そして授戒の現状等々、老師ご自身のこれまでの研究や体験を通して様々な角度から行持儀礼というものを分析され、それを表やグラフによって分類整理されながら説明して頂いた。最後は質疑応答によって講演は終了した。今回中心となった「伝法」といって「行持」といって、その全内容を二日間把握するには、なるほど時間的に無理があった感はないが、しかし前述したように、たとえそうではあっても、今大会を通して「伝法」とは、「行持」とはどのようなものかということが、おぼろげながらも参加者に見えてきたのではないかと云うことができらう。



曹洞宗青年会が綿密に企画し、禅の歴史と思想を分かりやすく解説布教活動の貴重なハンドブック!!

いよいよ待望の刊行!
禅文化講座

禅へのいざない

全四巻

曹洞宗青年会 編
B六判 並製函入
各巻平均二三〇頁
定価一〇、〇〇〇円
(分売致しません)

- 第一巻 インド仏教と禅定
- 第二巻 中国仏教と禅
- 第三巻 日本仏教と禅
- 第四巻 現代社会と禅

「禅へのいざない」曹青会員価格のお知らせ
専用振替用紙で前金の御注文の場合に限り1セット9,000円にて頒布致します。振替用紙は大東出版社まで御請求下さい。
振替口座 名古屋 3-53719 曹洞宗青年会出版部
尚その際、荷造費・送料として1回のお申し込みにつき、1律400円申し受けます。本広告掲載の他の書籍と一緒に御注文いただいても、送料合計は400円です。

- ◎現代語訳で読む
 - 宝慶記 池田魯参著・四六判・310頁・2,800円
 - 学道用心集 藤原壽雄著・四六判・308頁・2,800円
 - 正法眼蔵随聞記 藤原壽雄著・四六判・454頁・2,900円
 - 永平大清規 藤原壽雄著・A5判・455頁・5,974円
 - 天台小止観 関口真大著・B6判・138頁・1,009円
- ◎読書で座禅をする
 - 詩と禅 小倉玄照著・B6判・224頁・1,236円
 - 禅院おりおり 小倉玄照著・四六判・277頁・1,751円
- ◎敦煌に学ぶ
 - 敦煌仏典と禅(講座敦煌第8巻) 藤原壽雄、田中良昭編・A5判・466頁・7,800円
 - 敦煌禅宗文献の研究 田中良昭著・A5判・724頁・16,377円
- ◎学術叢書禅仏教(A5判)
 - 監修/古田紹欽/鏡島元隆/柳田聖山/鎌田茂雄
 - 唐五代の禅宗 鈴木哲雄著・428頁・7,725円
 - 道元禅師とその周辺 鏡島元隆著・370頁・7,210円
 - 華嚴禅の思想史的研究 吉津宜英著・386頁・7,210円
 - 摩訶止観研究序説 池田魯参著・376頁・8,755円
 - 宋代禅宗史の研究 石井修道著・610頁・13,390円
 - 中国中世仏教史研究 諏訪義純著・326頁・8,240円
 - 日本禅宗史の諸問題 古田紹欽著・306頁・8,240円

表示の価格は全て税込
書目録呈
株式会社 大東出版社
〒113 東京都文京区白山一―三七―一〇
☎三(八)六七〇P FAX三(八)二二五八



曹洞宗福島県青年会

会長 秋山孝雄

我が曹青を語る (18)

我が曹洞宗福島県青年会(曹福青)は現在約百名の正会員を擁し、県内を六支部に分け執行部独自の計画や各支部に計画を委託しての自由研修等を通じ活動をしております。今年度の曹福青の主な事業には、緑蔭禅の集い・修証義公布百周年記念講演会・禅カレンジャー販売・会報発行・禅の集い指導者研修会をはじめ沢山の予定が組まれています。

曹福青の歴史は「緑蔭禅の集い」の歴史と云うことが出来ると思えます。そのスタートは、禅の集いから歴史が始まることとなります。昭和三十九年の須賀川市長緑蔭寺で開催されてより十余年間その後、徐々に会場数が増加の一途をたどり平成二年度は、三十八ヶ寺で四十九回開催され、参加者は二千二百余名を数えています。その他にも独自の開催も相当数あるようです。

発足当時の青年会は現在と違い僧俗一体の形で作られ活動したようです。諸先輩方の結成への熱意と努力は、後に禅の集いに参加したものに大きな影響を与えていった経緯があります。現在、曹福青の中心にある会員の中には高校・大学生であった頃に禅の集いに参加し、深く感動を覚えた諸兄も沢山いることを確信しております。

長祿寺本堂で坐禅をし講義を聞き、二泊目の夜にキャンプファイヤー、更に懺悔道場を設け洒水を受け本堂で感恩の詩を朗読したこと。須賀川市牡丹園で討論したこと等次々に想起起こされます。禅の集いは県内の諸先輩方や多くの友との出会い、語り合いの場所でもあったわけですが、日程の進行についても前々から準備をし、会員各師が参加者を募集する。又、役割分担もあり正に全体的なものであったように思われます。その間、禅の集い開催にも大分変化が見られます。その当時と今日県内で行われている一般的な禅の集いの形態とを比較してみるとその経緯が明らかになると思えます。先ず第一に会場数が増えたことがあり、昭和五十年頃から増えはじめ、次第に各

支部毎の開催と進み更に昭和五十三、四年頃から現在のよう形態に移行してきました。つまり、第二には参加対象者が小学生の所が殆どになったということ。中学・高校生・大学生・一般を対象にしている会場が少なくなったこと。年々会場数・回数とも増加をたどり好ましい現象が出ているようですが、反省面も多数あるのではないかと思います。



▲子供禅の集い

青年会として考慮しなくてはならぬことは、一般人や青年層・同世代の者に対する教化をどのように持つか、教化内容講師・参加者を考え、更に工夫する必要を感じます。会員共々の今後の課題だと思えます。

次に、布教化資料としての「禅語カレンジャー」も十年目を迎えることになりました。教化資料として第五代会長の天野淳乗師の発案で始まったのが十年前です。以来、カレンジャー委員長は県中支部を最初に県内六支部を巡回しておりました。計画にあたっては相馬市の国民宿舎で協議したことがつい最近の事のように思われます。お蔭様で販売部数も年々伸びており昨年度には約四万二千部を記録し、平成二年度はそれ以上になることが確実です。一部二百円という超安値は当初と全く変わっていないことや、毎年の委員各位の熱意等によることが販売の伸びと関連していると思えます。反面、事業が伸びていくに従い、委員長はじめ委員の負担や労苦も大変なものがあります。この辺で見直す時期に来ていると感じます。委員会においてよく内容を検討し、より充実すべく努力が必要と思えます。来期以降も継続されるものと思えますので、特別のお引き立てをお願い申し上げます。

尚、その間納品の遅れや誤植が出てしまいい多大な御迷惑をおかけ致した御寺院様もありません。関係各位には紙面をお借りしてお詫び申し上げます。

「会報の発行」は曹福青の情報に欠かせないものになっております。県内の情報や各支部の出来事、宗務所の行事を紹介して各種行事への積極的参加を呼び掛けております。会報発行は年四回行われおり正会員・県内寺院・各単位曹青・全曹青役員宛に発送されております。

第一号は昭和五十二年度に、初代会長の長祿寺秋実遠老師の揮毫「精進」を頂いて発行されてから平成二年十二月で四十七号を数える迄になりました。第三代会長安倍元雄師の時で二頁ものでした。特筆すべきことは第六代会長吉岡棟憲師(全曹青第六代会長)は年六回の発行をやっておられることです。

発行に当たっては、会報を通じ県内ばかりでなく、全国単位曹青の情報も必要に応じ提供し、常に青年宗侶として何を求め、何を為すべきかを問いかけたいと考え編集に取り組んでおります。

現在、宗門において曹青の活動は一応の評価はされていると思えます。曹福青においても、特に宗務所様の多額の補助はじめ多数の県内御寺院様方のご賛助を賜っております。その事は同時に青年がその理念に基き情熱を傾倒していく姿が求められる所だと思えます。

最後に、曹福青は先輩各位が目的に向かつて思考錯誤を繰返し乍ら発展し、今日の姿があるわけです。今後においても「何事にも挑んでいける」若者の特権をフルに発揮できる会であって欲しいと切に念願するものであります。



▲親善ソフトボール大会

- 全曹青リレー 十一月七日
- 歳末助け合い 各支部
- 禅の集い指導者研修会 一月十七、八日
- 講師 小島昭安 老師

- 【平成二年主な行事】
- 定例総会 四月二十二日
 - ネパールロード欠乏症救済 六月
 - 修証義公布百周年記念講演会 六月
 - 講師 中畑 清氏 七月二十日
 - 緑蔭禅の集い 県内三十八ヶ寺
 - 第六回親善ソフトボール大会対茨曹青 八月二十九日 いわき市
 - 全曹青リレー 十一月七日
 - 歳末助け合い 各支部
 - 禅の集い指導者研修会 一月十七、八日
 - 講師 小島昭安 老師



▲親睦ボーリング大会



▲托鉢

曹洞宗の源流をたずねてシリーズ 中国天童寺参拝 91年1月~91年9月

<p>Aコース 天童寺参拝と江西・雲居山と廬山、景德鎮</p> <p>●百丈清規を今に伝える雲居山真如禅寺 江湖会発祥の馬祖・石頭禅師の宝峰寺参拝</p> <p>【日程】上海/天童寺参拝/杭州, 浄慈寺, 西湖, 靈隠寺/南昌, 真如寺, 宝峰寺/天下の名山廬山/景德鎮/帰国</p>	<p>Bコース 天童寺参拝と広東・曹溪山と桂林、広州</p> <p>●六祖慧能禅師の六和靈照塔にぬかずく感動の南華寺参拝と智薬三蔵華舟漂着地広州・光孝寺参拝</p> <p>【日程】上海/天童寺参拝/杭州, 浄慈寺, 西湖/広州, 六祖真身像の六榕寺, 光孝寺/韶関, 南華寺, 曹溪十二景/桂林/帰国</p>	<p>Cコース 天童寺参拝と江西省佛教寺院めぐり</p> <p>●洞山・青原山・百丈山の響もなつかしい参拝と研修三昧の旅</p> <p>【日程】上海/天童寺参拝/杭州, 浄慈寺, 西湖, 靈隠寺/南昌, 真如寺, 宝峰寺/青原山浄居寺/洞山普利院/百丈山大宝勝院/帰国</p>
---	---	---

全コース 東京・大阪発着/日程・宿泊施設・内容等中国の専門旅行社として 厳選し、精通した添乗員が同行お世話致します。

お問い合わせは

主催 アショカツアース(株)ビーエス観光 大阪(06)444-2221 東京(03)-563-2691 担当・提. 新木 名古屋(052)261-8381 お気軽にご相談下さい。

尼僧団便り

十年だまっして坐る

— アメリカでの再出発にあたり —
ベナージュ大円

托鉢を禁じている国では、どういふふうに住きたらよいか、ライト・ライブリフドはアメリカとヨーロッパの禅僧にとつて、大きな課題であることは間違いありません。

愛知専門尼僧堂での修行を終えた私は、更に四年にわたる師家養成所での修行の機会を得ましたが、その解問(げあい)休暇)に、故郷であるペンシルバニア州の田舎で、平等山禅堂の下準備を始めました。近所のクエーカー宗の百姓の方が私を心配して、山ほどの野菜を供養して下さいました。農菜を使わないすばらしい野菜です。驚鳥ぐらゐの大きさい玉葱を沢山ちようだいしました。宝慶寺の弟子の丁尼は、平等山禅堂で、昨年の冬、三ヶ月の間典座を勤めて下さいました。北ヨーロッパに生まれた丁尼は、カボチャ・パイ、カボチャ・クッキー、カボチャ・スープと、さまざまに工夫して食卓を飾ってくれました。

田舎ですから自動車がないと非常に不便です。でもないからこそ、多くの方々が、それこそ知らない人々までもお力を貸して下さいました。車で四時間半もかかる遠距離の所から、週末に坐禅とヨーガの指導を頼まれました。一人の若い婦人は、五才の子供を御主人にあずけ、私達を乗せてはこの会に参加して下さいました。会を終えて帰る途中、「実を云えば四時間半も運転すれば疲れるのではなにかと心配しましたが、坐禅とヨーガのお蔭で少しも疲れないばかりではなく、かつてのいろいろな悩みも解決することができました。この御縁を大変よろこんでおります。来月私達はバーモント州へ

引越しますので、今より少し違くなりませんが、週末にはお迎えに参ります。私の車でもまいりましょう。サンキユ、サンキユウ・ベリーマツチノ」と云つて、痛いほど手を握ってくれました。

四国の喝破禅道場は私の師匠の寺ですが、私の出家得度より数年前に始められたものです。師匠は大変苦勞して、多くの参禅者の力を借りながら、全くの零から出発して、すばらしい修行の道場をつくるまでに至りました。十年黙って坐る十年托鉢で生きると云う条件で、私は仏門に入らせていただきました。師匠の背中を見、師匠を手本として、アメリカでの道場を始めようと思ひました。

新しい禅堂の出発にあたり、法友も心配してくれました。家賃はどういうアルバイトによって支払うか、弟子はいつ来るかと。そしてこんな話をついこの頃してくれました。「マサチューセツ州のD・V・禅堂は、弟子が出来ましたよ。Dさんは春、日本に呼ばれて、用事が終つてから一番弟子の墨染の法衣を買つたの。私に思わす合掌しました。そして「さすが」と拍手をおくりたい思ひでした。何年も自給自足とアルバイトでがんばつたDさんです。弟子の法衣を求めるとの托鉢は、何という喜びでしょう。口には出さなくても、全身で「私の弟子のために是非お願いします」と叫んでの托鉢であつたでしょう。アメリカにいる弟子も「師匠は母国で托鉢をして、その淨財で私のために新しい法衣を買つて下さいました。どんなに新しい法衣があつても私はがんばるつもりです」と、修行に力が入ることと思ひます。

Fさん師弟の姿を眺めつつ、私もいつの日か弟子が授かつたら、托鉢ができてもできなくても、同じ心で弟子を育てたいと、つくづく思ひました。

(大円師紹介、昭和五十九年愛知専門尼僧堂終了、同六十二年特別尼僧堂終了、師家養成所を経て、平成二年八月、四半世紀余にわたる日本滞在にピリオドを打ち帰国。尼僧堂々長の青山俊董師の随筆「美しき人」を英訳し、「Zen seeds」として佼成出版より出版。美しくしかも的確な識訳で好評)



▶大衆も参加してのミサ風景



▶シスターと共に、右はしが大円尼

私は先に、「真理はひとつ、切り口の違いで争わぬ」と言い、人類という枠の外から、人類のやつてゐることを眺めることができたなら、皆同じことをやつてゐるのであり、そのひとつの真理に対する切り口の違ひが、ときに神となり仏となり、法となつたにすぎないと述べました。科学の力によつて、人類史上はじめて地球圏外に出ることができ、地球や人類の全体を展望することができた人々が、期せずして同じことに気づき、協調してくれていることを知り、大変意を強くしました。

他人の法を非難しない

二つめは、道元禪師のおっしゃる「自法愛染の故に他人の法を毀譽してはならない」のお心です。つまり「自分の信奉する

真理は一つ

切り口の違いで争わぬ (下)

— 修道女への講義より — 青山俊董

る神仏やその教えをよしと思ひ、謙仰し愛しむあまり、他の宗教や神々の欠点を指摘したり非難してはならないと、厳しくいましておられますお心を、しっかりと胸にいただいてゆかねばならないと、自から云いきかせておられます。これは宗教のもつとも犯しやすすい罪ではなからうかと思ひます。

ただ修行の真偽を問う

ひとつのものに別の姿や名前が与えられるようになったその背景には、それなりの意味があつてのことです。また、その宗教を受け入れる側においても、千差万別なものであつて、究極のところはひとつのもの、その表れ方が違つただけと理解していても、感覚としてしつくりこない、どうも落ちつかない、ということもあるはずで、趣向の違ひと云つたらよいか、波長、リズムの違ひと云つたらよいか、本質論ではなくて方法論の違ひなのですか、これが意外に軽視してはならない問題ではないかと思つたのです。

三つめは、やはり道元禪師が「正法眼藏・弁道話」の中でお示しになつておられる「しるべし、仏家には教の殊劣を討論することなく、法の深淺をえらばず、ただ修行の真偽をしるべし」のお心です。つまり、どちらの教えの方が優れているかとか、どちらの神や仏の方がありがたいかとか、そんなことを云い争つたり、比較研究したりすることは、どうでもよいことだといふのです。大切なことは、今日ただ今の一步に命をかけて取り組んでいるか、またその一步が私をまじえずに、真実に従つて行はれていくのか、けをみずからに問ふことだといふのです。ここにこそ修道生活の本命があると思ひます。

かつて、あるシスターから、「非常な努力にもかかわらず、なぜキリスト教の教勢がその努力のわりに日本でのびないか、その原因はどこにあると思ふか」という質問を受けたとき、私は、何も知らないものの強さから、こんなお答えをしたことがありません。

また、この言葉は諸宗教対話の上の自戒となるばかりでなく、ひろく国家間の政治、経済、文化等のあらゆる面に向かつて大切な言葉として、心に銘記してゆきたいものと思ひます。

墓石 記念碑

石のヒウガ

(有)平賀石材工業所



静岡県経済連指定
造園・資材・灯籠
建築石材張石工事

本店工場 静岡県磐田郡佐久間町川合922 ☎(0539)65-1232代 FAX(0539)65-0921

浜北営業所 浜北市於呂1377の5 ☎(05358)8-7503
豊川インター支店 豊川市麻生田町中通り44の4 ☎(05338)4-7854
袋井インター支店 袋井市山科3256-1 ☎(0538)43-0510

豊橋支店 豊橋市羽根井西町12の13 ☎(0532)32-5730
静岡ペット霊園 静岡市平沢山王50番地 ☎(054)263-7161

昭和62年度全国曹洞宗青年会 意識調査——報告

4. 満年齢別 * 24. 後継者についての希望

	標本数	自分の子	外部からの弟子	どちらでも	無回答
全 体	100.0 1193	50.5 603	6.2 74	41.2 492	2.0 24
20~24歳	100.0 40	50.0 20	2.5 1	47.5 19	-
25~29歳	100.0 160	48.1 77	5.0 8	45.0 72	1.9 3
30~34歳	100.0 236	45.8 108	3.8 9	48.7 115	1.7 4
35~39歳	100.0 336	48.5 163	6.5 22	42.9 144	2.1 7
40歳以上	100.0 408	56.6 231	7.8 32	33.6 137	2.0 8

4. 満年齢別 * 70. 青年会の活動で役に立ったことは

	標本数	あ	ない	わからない	無回答
全 体	100.0 1193	19.1 228	20.9 249	55.1 657	4.9 59
20~24歳	100.0 40	7.5 3	7.5 3	82.5 33	2.5 1
25~29歳	100.0 160	10.0 16	21.3 34	66.3 106	2.5 4
30~34歳	100.0 236	14.8 35	21.2 50	59.3 140	4.7 11
35~39歳	100.0 336	18.5 62	25.3 85	51.5 173	4.8 16
40歳以上	100.0 408	26.7 109	18.9 77	48.5 198	5.9 24

4. 満年齢別 * 73. (口) 将来の生活設計

	標本数	公務員になる	一般企業に入る	その他	無回答
全 体	100.0 22	-	4.5 1	86.4 19	9.1 2
20~24歳	100.0 5	-	-	80.0 4	20.0 1
25~29歳	100.0 1	-	-	100.0 1	-
30~34歳	100.0 6	-	-	83.3 5	16.7 1
35~39歳	100.0 5	-	20.0 1	80.0 4	-
40歳以上	100.0 5	-	-	100.0 5	-

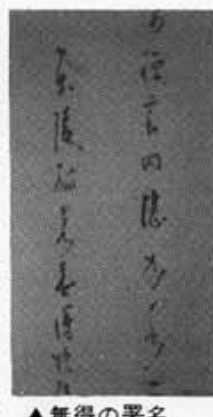
研修 第九回 吉岡博道 宗門の書 “筆痕”

明峰下の中で無得良悟禪師を祖とする一派がある。その法系は加賀の実性院、山口の大寧寺を本拠地として主に北陸、山陽、山陰に広まった。この法系図は、



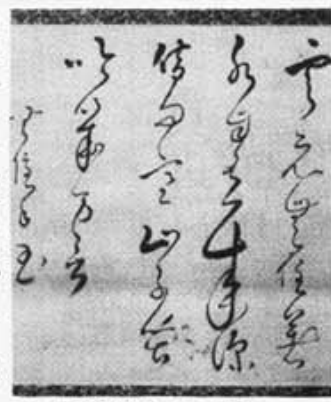
実に多くの筆痕を残している系統である。更に文藻豊かな語録類が数多く刊行されている。今回はこの中より無得、無隠、仏海、甘雨各禪師を紹介する。無得良悟(一六五一—一七二四)は若い時、黄檗隠元、木庵、潮音に参じ、四十才で加賀実性院に入山、六十才頃、実性院を去って郊外に草庵をたてて、そこに起居した。それから関東地方に錫を留め、六十八才になって山口長門の大寧寺の拝請を受け、多くの雲水を指導した。その後、山口の法泉院を終焉の地として十八年間住み、寛保二年、九十二才で示寂した。六十二人の弟子を打出したこと知られる。写真は無得の署名の部分である。「東陵孤窟無得悟禅稿」とあり、本文も細字である。かの円山の小字を思わせる書きぶりである。ほかに「瑞雲無

得」のサインのあるのを見たことがあるが概しておとなしい小字、或いは茶掛風に書かれたのが多いようだ。



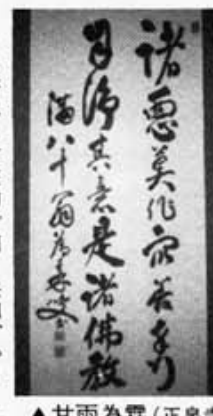
▲無得の署名

無隠道費(一六八八—一七五六)は長州の生れ。出家して無得良悟の室に入り因幡興宗寺、石見の円光寺、加賀の実性院、最後に長門大寧寺の師席を董した。大寧寺を無得派(下)の禪林というのは無得、無隠師資が此処を基点に法幢を織えし、禅法を挙揚し、四来の雲納を教育したからである。無隠の著書は無隠四会語録、無孔笛、心学典論、雜華集、金竜尺牘集があり、夫々刊本として発刊された。さて無隠の書であるが、かの千丈実徹は「幽谷余韻」の中で「無隠和尚以翰墨名手干叢林之間」と述べている位だから当時、すでに無隠の書は叢林の間で珍重されていたようだ。この写真は五言古詩



▲無隠道費 (正泉寺蔵)

の細字である。後年の良寛をほうふつさせるようなしなやかな躍動感、何物にもとられない境地が伺える。大字もあるが、むしろ無隠の筆痕はこのような詩文にその本領がある。それだけ文字、特に文章道に相当の苦心をほらい、又相当の自信があったのだから。



▲甘雨為霖 (正泉寺蔵)

その書体は女性的で細く柔和、やさしく楷書体に近い行書というか、非常にスッキリしておとなしい。それでいて一本通ったものを秘めている、そんな印象をうける。この仏海慈舟、甘雨為霖の系統がのちの熊沢泰禪師を産み、無得下の文藻風雅の道が現在にうけつがれた。

総括すると無得下には文雅を愛する風が非常に強く、冒頭の法系図のように多くの筆痕を残した人が知られている。宗門は古来より臨済に比べ翰墨を嗜む人が少ないといわれているが、無得下に限ってこの言はあてはまらない。

(文中敬称略)



▲仏海慈舟 (正泉寺蔵)

“彫刻のことならなんでも”



株式会社 宗像商会

注文仏像・唐木仏具
大木魚・大鑿子

— 一手打一枚製鑿子好評発売中 —

本当の一枚の材料からたたき上げた鑿子です。溶接品とは音質が違います。まずはお問合せ下さい。

本店	東京都東村山市富士見町3丁目2番17号	〒198	TEL (0423)95-8505(代表)
盛岡支店	岩手県盛岡市みたけ5丁目10番48号	〒020-01	TEL (0196)41-3955(代表)
函館支店	北海道函館市亀田町19-18号	〒040	TEL (0138)43-8550
松山支店	愛媛県松山市和泉北1丁目5番20号	〒790	TEL (0899)47-2013